資料　６－１

河川事業委員会報告事項

平成２７年　２月１２日

国土交通省　東北地方整備局

事後評価における事業評価監視委員会への報告根拠について

評価別	対象事業	学識経験者等から構成される委員会での審議		評価結果の事業評価監視委員会への報告	
		審議根拠	報告根拠文	審議根拠	報告根拠文
事後評価	・雄物川下流特定構造物改築事業 （新屋水門（あらやすいもん））	『国土交通省所管公共事業の完了後の事後評価実施要領』 第6の5	河川事業及び「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」の対象とならないダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために、学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて、当該委員会において審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の完了後の事後評価実施要領細目』 第6	実施要領第6の5の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。
事後評価	・北上川上流特定構造物改築事業 （JR 衣川橋梁（ころもかわきょうりょう））				
事後評価	・阿武隈川水防災対策特定河川事業 （丸森・梁川（まるもり・やながわ）地区）				

河川整備委員会・河川整備学識者懇談会等での審議結果一覧

【事後評価の審議結果】

事業名	該当基準	総事業費（億円）	費用対効果分析（B/C）	対応方針（案）	審議の委員会・懇談会	
					委員会・懇談会名（開催月日）	審議結果及び意見
雄物川下流特定構造物改築事業（新屋水門）	事業完了後5年	11	2.9	対応なし	○雄物川水系河川整備学識者懇談会（平成27年1月27日）	平成27年1月27日　雄物川水系河川整備学識者懇談会において審議 ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。
北上川上流特定構造物改築事業（JR衣川橋梁）	事業完了後5年	107	1.9	対応なし	○北上川水系河川整備学識者懇談会（平成26年11月12日）	平成26年11月12日　北上川水系河川整備学識者懇談会において審議 ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。 なお、今後新規に同種事業を立ち上げる際には、事業費、便益、事業範囲等の設定条件の精査及び費用対効果分析の手法について精度を上げる検討を続ける必要がある。
阿武隈川水防災対策特定河川事業（丸森・梁川地区）	事業完了後5年	57	1.1	対応なし	○阿武隈川水系河川整備委員会（平成27年2月10日）	平成27年2月10日　阿武隈川水系河川整備委員会において審議 ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。

事後評価結果一覧

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

事業名 事業主体	(a) 該当 基準	(b) 総事業費 （億円）	(c) 費用便益分析 貨幣換算した便益：B（億円）	便益の内訳及び主な根拠	費用：C （億円）	B／C	(d) 貨幣換算が困難な 効果等による評価	(e) 事後評価の視点 （事業効果の発現状況、事業実施による環境の変化、今後の事後評価の必要性等）	(f) 対応方針 （案）	(g) 審議結果及び意見	(h) 備考
雄物川下流特定構造物改築事業 （新屋水門） 東北地方整備局	事業完了後 5年	11	47	【内訳】 被害防止便益 ：46.9億円 残存価値 ：0.1億円	16	2.9	○計画規模の洪水が発生した場合、 ・浸水面積は約37ha、浸水戸数は約76戸 ・隣接する工場地帯の浸水被害が発生すると想定された。 ○水門設置後およそ70年が経過し、施設が老朽化し、構造上の支障が確認されたため、早期に改築を行った。	①事業効果の発現状況に関する視点 ・旧施設では常時や洪水時、地震時において安全性が確保できない状況で、水門の沈下・転倒が発生する危険性が高い状態であったが、改築の結果、水門の機能を発揮し平成23年6月洪水では家屋や工場の想定される浸水被害を防止した。 ②社会経済情勢の変化に関する視点 ・新屋水門の改築と同時に、秋田市では都市計画道路として計画されている「市道割山南浜線」の道路整備が進められ、現況5,000台／日の交通量に対して、計画9,800台／日の交通量が確保でき、交通混雑が緩和されている。 ・また、新屋水門改築の背後地の安全性が確保されたため、三角沼環境整備事業（かわまちづくり）に着手し、河川公園の整備を図ることにより、NPO法人主催によるカヌー体験やイベント等が多く見られる。 ③今後の事後評価の必要性に関する視点 ・平成23年6月洪水においても事業効果が発現し、費用対効果(B/C)は事業実施後においても2.9と事業実施効果が得られ、事業の有効性が十分見込まれることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考える。	対応なし	【学識経験者等から構成される委員会】 ○雄物川水系河川整備学識者懇談会 （平成27年1月27日） ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。	
北上川上流特定構造物改築事業 （JR衣川橋梁） 東北地方整備局	事業完了後 5年	107	272	【内訳】 被害防止便益 ：266億円 残存価値 ：5.4億円	145	1.9	○計画規模の洪水が発生した場合、 ・浸水面積は約312ha、浸水戸数は約84戸の浸水が発生すると想定された。 ○当該地区において、昭和56年8月、平成10年8月、平成14年7月洪水において、浸水被害が発生した。 ○平成14年7月洪水では、 ・浸水面積約180ha、浸水戸数は16戸ほか、JR東北本線においても衣川地区の水位上昇に伴なう運行規制により、重要な交通網に支障が発生したため、早期に浸水被害の軽減を図った。	①事業効果の発現状況に関する視点 ・事業実施前に発生した平成14年7月洪水では、浸水戸数16戸、浸水面積180haの被害が発生し、広範囲に外水氾濫が生じていたのに対して、平成19年9月洪水（橋梁部は完了済）では、家屋や農地、さらには国道4号線やJR東北本線等の重要交通施設の洪水による浸水被害が防止された。 ②社会経済情勢の変化に関する視点 ・事業実施前の衣川右岸（JR上流区間）では、平成7年8月洪水において、広範囲の浸水被害が発生していたが、事業完成後は、洪水による氾濫被害の解消により、国道4号（奥州街道）沿いなどで宅地化が進み、人口や家屋が増加している。 ・JR衣川橋梁完成後は、水位に対する運行規制は設定されておらず、平成19年9月洪水以降、列車運行の安全性が確保されている。 ・また、平泉町では、主要なイベント等に県内外から多くの観光客が訪れ、JR東北本線や自動車交通の安全運行に役だっていると期待できる。 ③今後の事後評価の必要性に関する視点 ・平成19年9月洪水においても事業効果が発現し、費用対効果(B/C)は事業実施後においても1.9と事業実施効果が得られ、事業の有効性が十分見込まれることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考える。	対応なし	【学識経験者等から構成される委員会】 ○北上川水系河川整備学識者懇談会 （平成26年11月12日） ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。 なお、今後新規に同種事業を立ち上げる際には、事業費、便益、事業範囲等の設定条件の精査及び費用対効果分析の手法について精度を上げる検討を続ける必要がある。	

事後評価結果一覧

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

事業名 事業主体	(a) 該当 基準	(b) 総事業費 （億円）	(c) 費用便益分析 貨幣換算した便益：B（億円） 便益の内訳及び主な根拠	費用：C （億円）	B／C	(d) 貨幣換算が困難な 効果等による評価	(e) 事後評価の視点 （事業効果の発現状況、事業実施による環境の変化、今後の事後評価の必要性等）	(f) 対応方針 （案）	(g) 審議結果及び意見	(h) 備考
阿武隈川水防災対策特定河川事業 （丸森・梁川地区） 東北地方整備局	事業完了後 5年	57	84 【内訳】 被害防止便益 ：77.3億円 残存価値 ：7.1億円	79	1.1	○計画規模の洪水が発生した場合、 ・浸水面積は約70ha、浸水戸数は約64戸 の浸水が発生すると想定された。 ○昭和61年8月洪水、平成10年8月洪水、平成14年7月洪水において浸水被害が発生した ○平成14年7月洪水では、 ・浸水戸数約38戸が発生していたため、早期に浸水被害の軽減を図った。	①事業効果の発現状況に関する視点 ・事業実施前に発生した昭和61年8月洪水、平成10年8月洪水、平成14年7月洪水では、家屋や国道349号の浸水被害が生じていたのに対し、平成23年9月洪水では、輪中堤の整備、宅地嵩上げの実施により、家屋浸水被害が防止された。 ②社会経済情勢の変化に関する視点 ・輪中堤整備箇所については、事業実施後に災害危険区域より除外され、土地利用の規制が無くなっている。 ③今後の事後評価の必要性に関する視点 ・平成23年9月洪水においても事業効果が発現、費用対効果(B/C)は事業実施後においても1.1と事業実施効果が得られ、事業の有効性が十分見込まれることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと考える。	対応なし	【学識経験者等から構成される委員会】 ○阿武隈川水系河川整備委員会 （平成27年2月10日） ・改善措置及び、今後の事業評価の必要はない。	

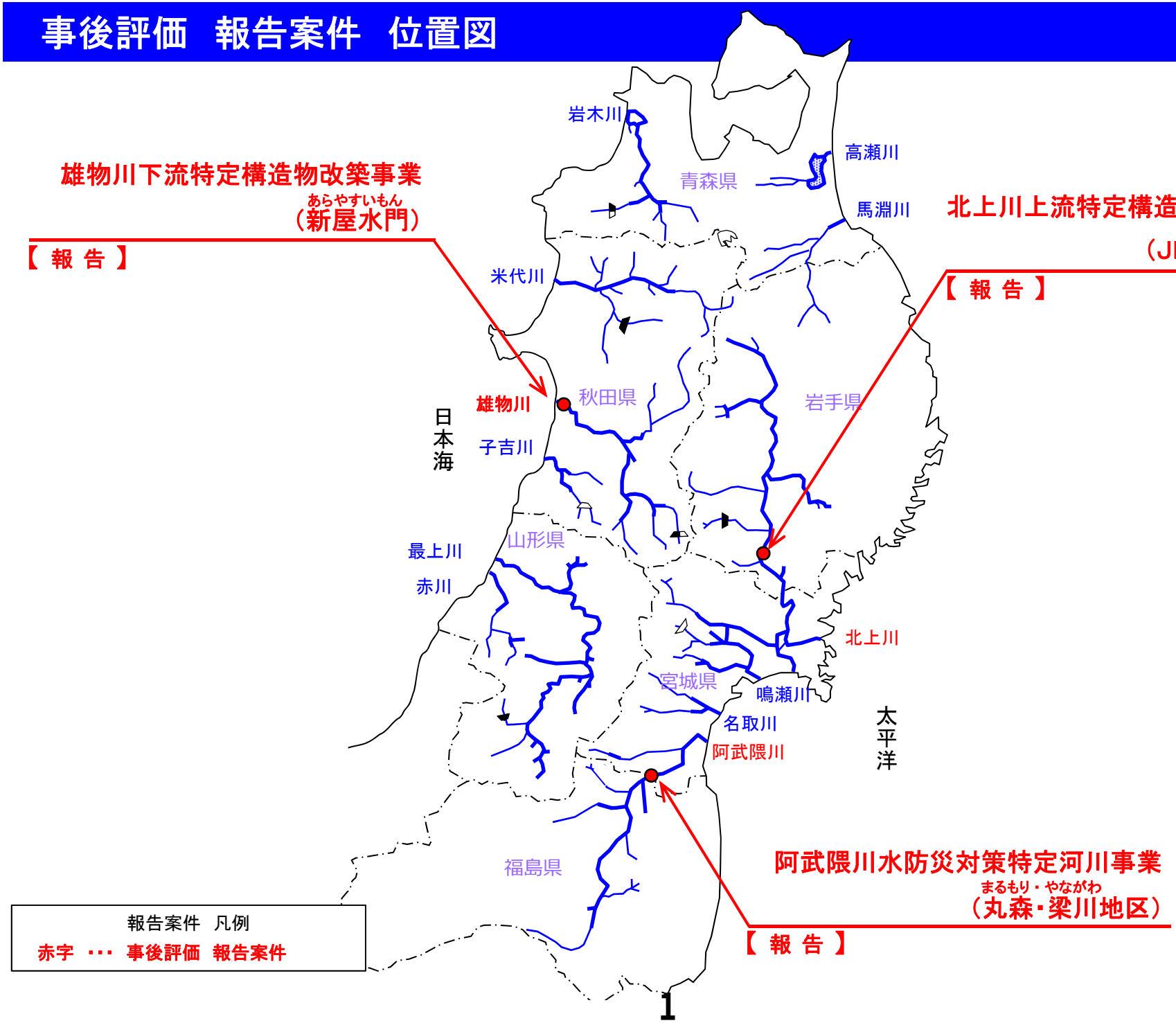
資料　６－２

河川事業委員会報告事項
（参考資料）

平成２７年　２月１２日

国土交通省　東北地方整備局

事後評価　報告案件　位置図

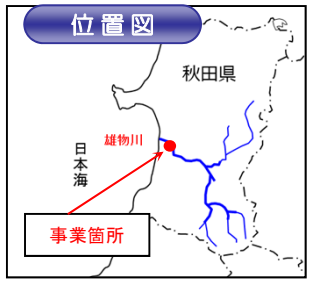


雄物川下流特定構造物改築事業（新屋水門）【事業概要】

■ 雄物川放水路完成に伴い雄物川から旧雄物川への洪水流入を防ぐため、昭和15年に設置された新屋水門は、設置後およそ70年が経過し、施設が著しく老朽化していた。

■ 専門家（土木研究所）との現地調査により、新屋水門は、構造上の支障が確認されたため、早期に改築を実施したものである。

位置図



事業内容【完了】

●事業箇所　：　秋田県秋田市茨島地内

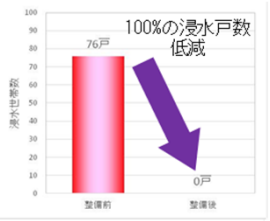
●事業期間　：　平成19年度～平成21年度

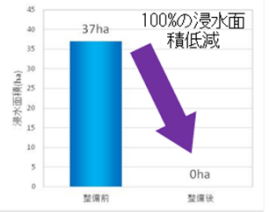
●全体事業費　：　約11億円（新規採択時計画額約11億円）

事業効果

・新屋水門からの洪水氾濫により、想定される浸水戸数約76戸、浸水面積約37haの被害が防止される。

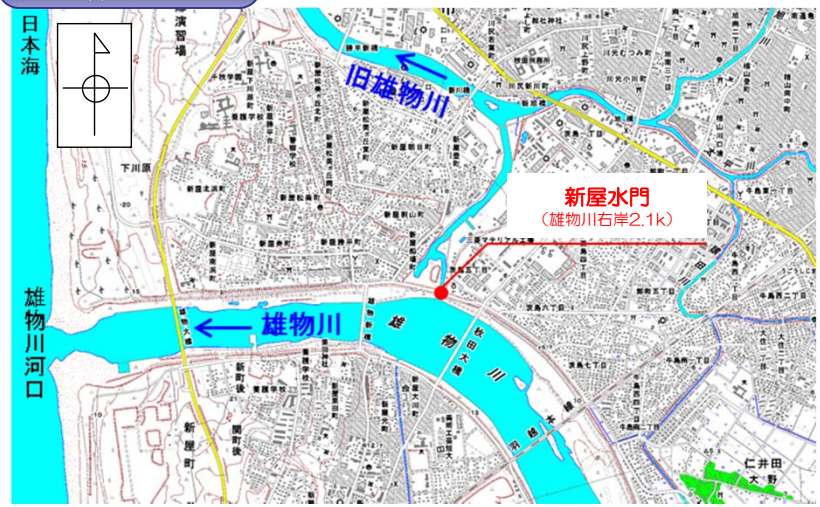






・水門改築と同時に、秋田市において「市道割山南浜線」を拡幅整備したことで、利用者の安全が確保されたほか、計画9,800台／日の交通が可能となり交通混雑が緩和されている。

全体平面図





【水門改築前】



【水門改築後】



【水門改築前（市道）】



【水門改築後（市道）】

北上川上流特定構造物改築事業（JR衣川橋梁）【事業概要】

■ 当該地区は、H14.7洪水において、浸水戸数16戸、浸水面積約180haの被害が発生し、国道4号線が約19時間以上にわたって全面的に通行止めとなったほか、JR東北本線においても、運行規制により、重要な交通網に支障となっていた。

■ JR衣川橋梁（昭和40完成）は、桁下高が不足し洪水時の阻害となっていたことから、当該地区の浸水を解消するため、JR衣川橋梁の架け替えを実施したものである。



事業内容【完了】

●事業箇所　：　岩手県西磐井郡平泉町地内

●事業期間　：　平成15年度～平成21年度

●全体事業費　：　約107億円（新規採択時計画額約65億円）

全体平面図





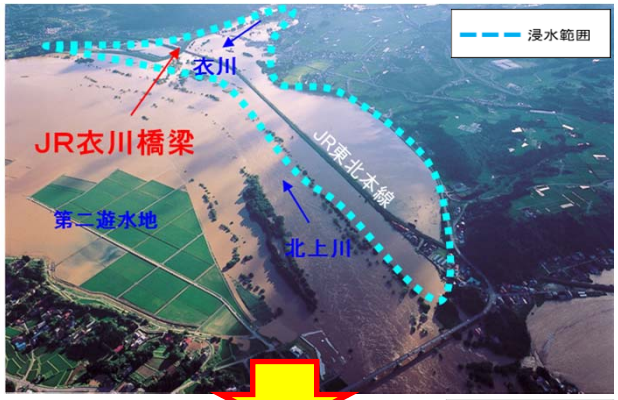
【橋梁改築前】



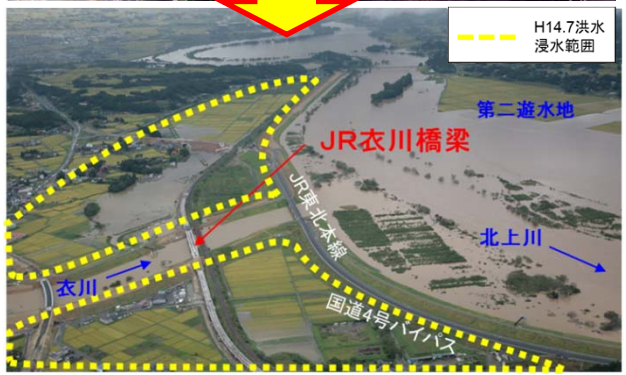
【橋梁改築後】

事業効果

・事業実施前の、H14.7洪水（狐禅寺地点最高水位13.5m）では広範囲に外水氾濫が生じていたのに対して、H19.9洪水（同地点最高水位12.18m）では外水氾濫が解消された。



【平成14年7月洪水における浸水状況】



【平成19年9月洪水における浸水状況】

・JR衣川橋梁改築後は、洪水発生時においても列車運行の安全性が確保されている 。

阿武隈川水防災対策特定河川事業 （丸森・梁川地区） 【事業概要】

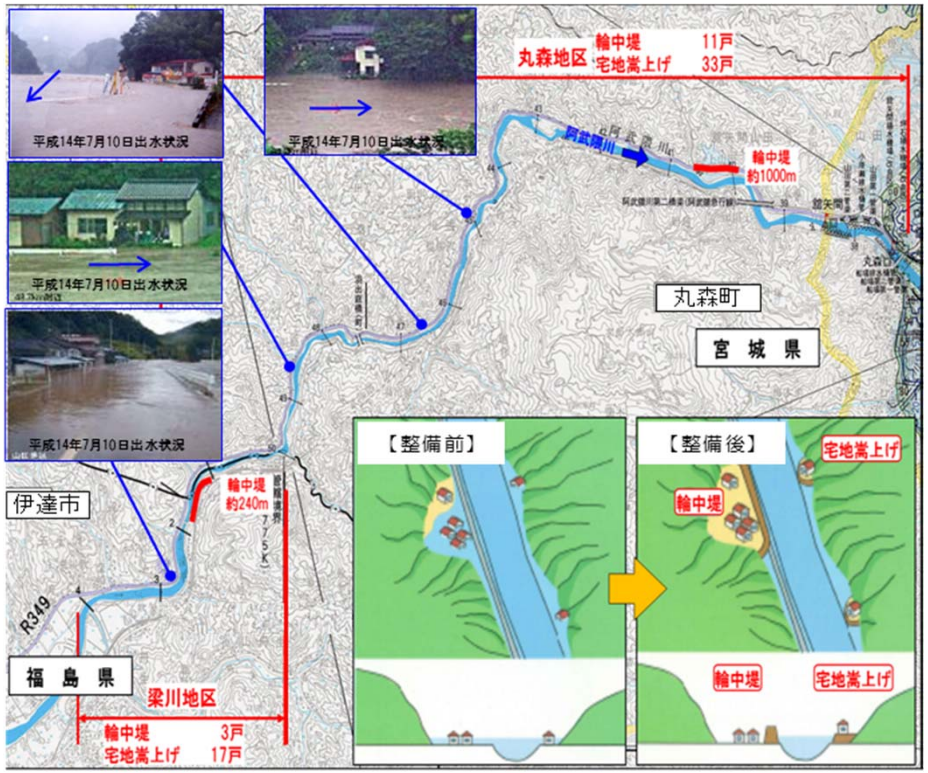
■ 丸森・梁川地区は、宮城・福島県境付近の阿武隈渓谷に位置しており、これまで無堤区間であったことから、浸水被害の常襲地帯となっていた。
■ 本事業は、度重なる洪水を契機として、浸水被害の防止を図ることを目的に、輪中堤や宅地嵩上げを実施したものである。



事業内容【完了】

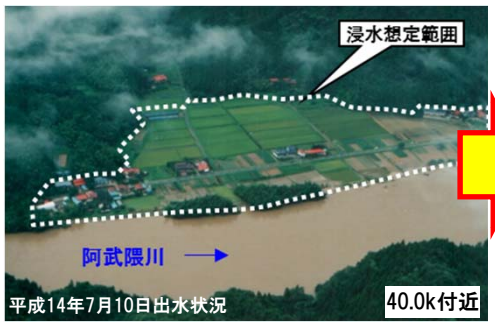
●事業箇所 ： 宮城県伊具郡丸森町～福島県伊達市
●事業期間 ： 平成15年度～平成21年度
●総事業費 ： 約57億円（新規採択時計画額約60億円）

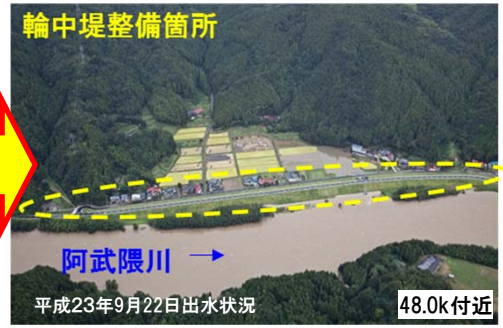
全体平面図



事業効果

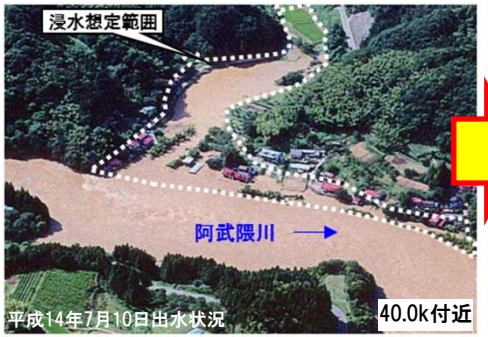
・計画高水位規模の洪水に対しては、輪中堤、宅地嵩上げの実施により、家屋や農地、国道等の浸水被害を防止。

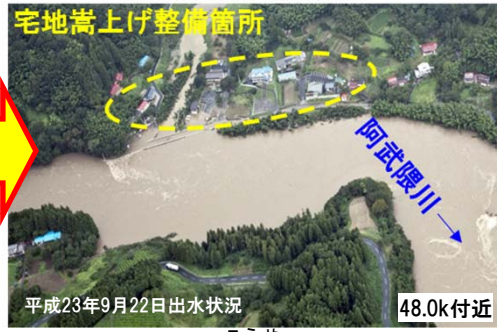




たてやま
【舘矢間地区整備前】

たてやま
【舘矢間地区整備後】





こうや
【耕野地区整備前】

こうや
【耕野地区整備後】

計画高水位規模の洪水に対して、輪中堤の整備や宅地嵩上げの実施により、家屋（64戸）の浸水被害が防止される。

